

「守分ドラマ」一堂に

「幻の町」「うちのホンカン」…小樽ゆかりの演出家

小樽とゆかりの深かったテレビ演出家・プロデューサー、守分寿男さん（1934〜2010年）の仕事伝える企画展「守分寿男 全仕事」が26日から、市立小樽文学館で開かれる。小樽を舞台にしたドラマ「幻の町」の台本など300点ほどの資料を展示。「うちのホンカン」シリーズなど北海道に根ざしたドラマを手がけた業績を伝える。

（森川潔）

小樽文学館 26日から「全仕事」展

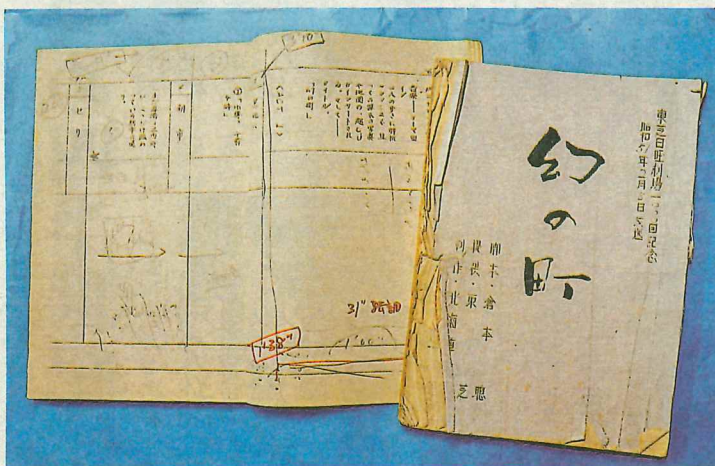
大分県出身の守分さんは小樽商科大を卒業後、北海道放送（HBC）に入社。1970年代から80年代にかけて、脚本家の倉本聰さん（富良野市在住）とのコンビで芸術祭優秀賞に輝いた「ばんえい」や「幻の町」、「うちのホンカン」など数々の名作ドラマを演出した。中でも笠智衆さんと田

中絹代さんが冬の小樽をさまよい歩く老夫婦を演じた「幻の町」は秀作として語り継がれている。HBCを退社後も、演出・構成を担当した2008年放映のドキュメンタリー「いのちの記憶〜小林多喜二・二十九年の人生」で芸術祭大賞を受賞。これが遺作となった。



テレビドラマの名作を数多く手がけた故・守分寿男さん

守分さんを単独で紹介する大がかりな企画展は没後初めて。守分さんが関わった30本近いテレビドラマの台本やスチール写真、創作メモ、愛用品に加え、樽商



大在学中から趣味で描いていた絵画55点も展示する。「守分さんの作品は、小樽でロケをした『幻の町』のように、小樽でなければ撮れなかったものも多い。独特の映像へのこだわりについても、自身で描いた絵画から考察できると思う」と玉川薫館長。自身が撮影中に使っていた台本には演出プランなどが余白に書き込まれており、創作活動の一端に触れられる。

企画展は3月末まで。入場料は一般300円、高校生と市内在住の70歳以上は150円、中学生以下は無料。3月9日午後2時から館内で「幻の町」の特別上映と守分さんへのぶ講演会が開かれる（無料）。問い合わせは文学館 ☎0134・32・26088へ。

守分さんが撮影中に使った「幻の町」の台本

キャンパスから

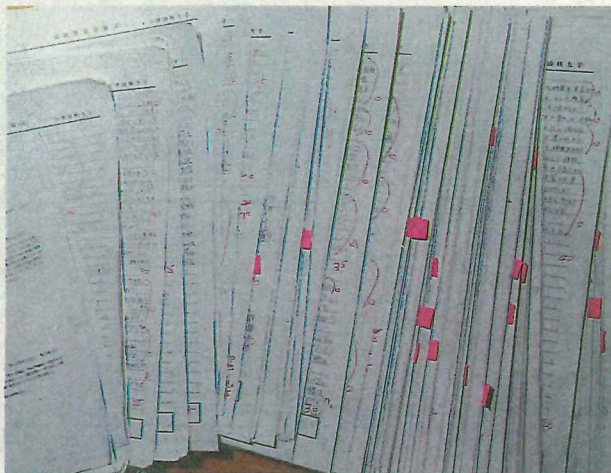
小樽商大
松家仁教授

私は、授業を担当している「経済史」の定期試験で時々、学生の意見を探るための問題を出題します。前回の定期試験では、地域活性化についての学生の考えを知りたいと思い、戦後日本流通史に関連づけて、シッター街化した地元商店街の活性化は必要なのか、それとも商店街が寂れるのは時代の流れでやむを得ないのかを尋ねました。

試験を受けた285人の中でこの問題を選択したのは173人。そのうち、商

商店街活性化 どう考える

画面にぎっしり文字が書きこまれた答案の山



店街の活性化対策が必要だと回答した学生は76人(約44%)。商店街の衰退は市町村の存続にかかわる、地域のアイデンティティーの喪失である、といった強い危機感を示す答案も多く、道内の具体的な地名を挙げ、故郷の社会問題として

捉える学生も目立ちました。一方、商店街が寂れるのはやむを得ないという学生も69人(約40%)いました(合計が100%にならないのは「場合による」という選択肢があるため)。彼らからは、ネットショップ

の拡大が商店街衰退の原因だ、商店街はショッピングセンターやスーパーマーケットと比べると品ぞろえや価格に差がある場合もあり、遠出が苦にならない若者にとっては魅力に欠けるなどの意見が出ました。さらに、商店街活性化の財源に税金が使われるのはいかなものか、という厳しい指摘すらあったのです。

どちらの立場にせよ、びっしりと書き込まれた答案用紙からは、多くの学生が地域活性化に強い関心を寄せていることが分かります。寂れつつある商店街のテコ入れを地域活性化の手段とすべきかどうか。地方創生という、地方国立大学に期待されている課題とも重なるこの論点について、皆さんはどうお考えになりますか？

全国693会場で始まる 大学入試センター試験 (2019/01/19)

[Tweet](#)


平成31年度大学入試センター試験が、1月19日(土)・20日(日)に、全国693会場で始まり、志願者数は、昨年より5,841人減の576,830人。合格を目指して試験に挑んだ。

道内25会場のうち、後志管内唯一の試験会場となった小樽商科大学(緑3)での志願者数は、昨年より9人多い547人(男337・女210)。昨年は、前年よりも52人少ない538人(男287・女251)だった。昨年同様、8つの試験会場を設置し、8:30から入室した。

昨日の大雪もやみ、心配していた交通機関の乱れもなく、商大通りは綺麗に除雪が行届き、目立った車の渋滞もなく、受験生を乗せ家族が運転する車がぞくぞくと到着。校門下で待ち構えていた高校や塾の先生が、「頑張れ！」と1人1人を励まし、合格を祈った。

同大学4階の第6試験室では、約70名の受験生が入室。狭い試験会場は、張り詰めた空気が漂った。緊張した面持ちの受験生は、係りからの注意事項を聞き、地理歴史・公民の問題用紙が配布された。

19日は9:30から、地理歴史・公民の試験がスタート。国語・外国語・英語(リスニング)が行われ、18:10に終了。20日は9:30から、理科①・数学①・数学②・理科②が行われ、17:40に終了する予定。



◎[大学入試センター](#)

◎[関連記事](#)